

千波湖の渡り鳥を調べました

～第9回千波湖環境学習会～

第9回目の千波湖環境学習会は、「千波湖の渡り鳥を調べよう」をテーマに1月16日に開催しました。風もなく、暖かい陽気の中で、コロナ禍ではありましたが、約60名の参加者がありました。

今回の学習会では、講師を茨城県環境アドバイザーに登録されているかすみがうら市雪入ふれあいの里公園所長である川崎慎二先生にお願いしました。最初に、講師から双眼鏡の使い方について、太陽を見てはいけないことや人を見ない、さかさまにして使うと顕微鏡として使用することができることの説明があり、参加者は初めて知ることもあり驚いていました。説明の後、千波湖湖畔で野鳥観察を始めました。千波湖では水鳥への給餌を止めた影響で、カモ類の飛来が少なくなっていますが、ヒドリガモ



千波湖畔での野鳥観察

やオナガガモなどを間近で観察出来ました。それ以外にも、親水デッキの近くでは、カルガモやオオバン、オオハクチョウやコクチョウなど様々な種類の野鳥を観察できました。

講師からは、それぞれの特徴や、カモ類は尾羽の形状で水にもぐって採餌する種と水面で植物などを主に採餌する種が分かること、カモと同じ位の大きさのオオバンは実はツルの仲間である水かきの構造が違うこと、ハクチョウはくちばしの黄色の部分の違いからオオハクチョウとコブハクチョウを区別することができることなど分かりやすく説明していただきました。湖畔を離れて少年の森へ向かう途中では、ハクセキレイを観察し、子どもたちは双眼鏡で探すのに苦労しながらも、楽しそうに観察を行っていました。また、落ちていたカラスの羽を例としながら、羽が左右どちらの羽なのかの見分け方の説明もあり、参加者は興味深く説明を聞いていました。

少年の森では、シジュウカラの群れやカラス、トンビなどが見られ、それぞれの種類について、丁寧に解説をしていただきました。また、ヤドリギも生えており、ヤドリギについての説明もしていただきました。

出発地点の親水デッキに戻り、今回の学習会で確認することの出来た鳥の種類のをまとめを行いました。今回は約1時間半程度の観察会でしたが、21種の鳥を見ることが出来ました。最後に、参加者から講師へお礼の挨拶をして、参加者にサラヤ株式会社様からご提供いただいたアルコール消毒液を配り、観察会を終了しました。



観察できた野鳥を確認

最後となりますが、講師を引き受けてくださった川崎先生、クイズの景品を提供いただいた株式会社ユーゴー様、アルコール消毒液を提供いただいたサラヤ株式会社様にお礼申し上げます。